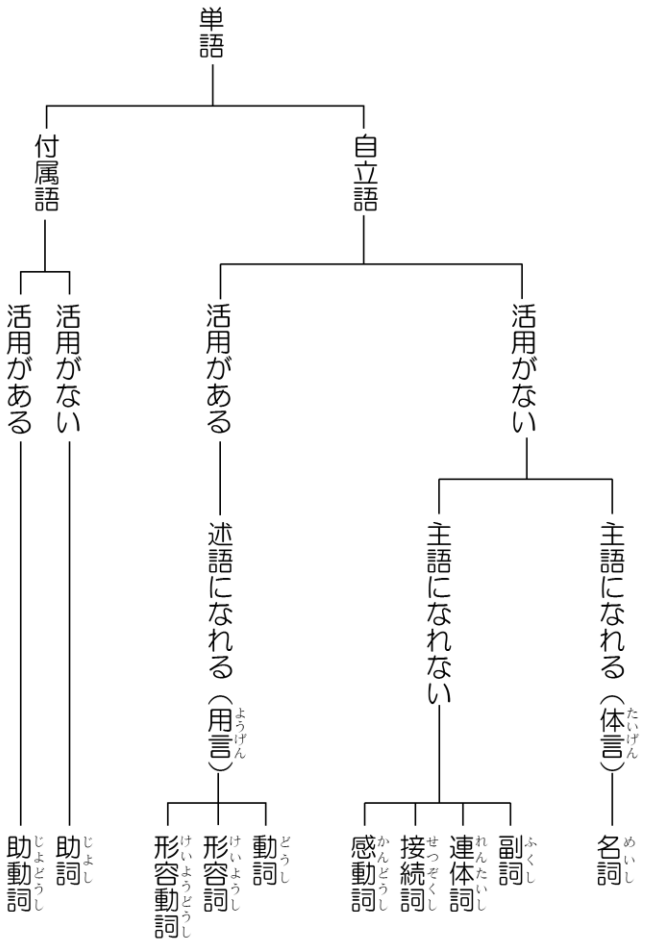
品詞／まとめ

単語（たんご）は、十の種類（品詞（ひんし））に分けられる。



名詞（体言）とは

確認① 名詞の性質

① 自立語で活用がない。

例 家（自）で（付）／本（自）を（付）／読む（自）。（自＝自立語、付＝付属語）

↓「家」「本」は独立語で、あとに続く言葉によって語形が変わらない。（名詞）

② 物の名前や事がらを表す。

例・海で 泳ぐ。
・人口の 増加が 問題に なる。

確認② 名詞の働き

▼ 名詞は、それだけで、または他の語を伴って、次のような働きをする。

① 「は・が・こそ」などを伴って主語になる。

例 犬は かわいい。 家が 建つ。 君こそ 代表だ。

② 「だ・です」などを伴って述語になる。

例 これは 本だ。 材料は 卵です。

③ 「の・を・に」などを伴って修飾語になる。

例 犬の 散歩。 水を 飲む。 公園に 行く。

④ 独立語になる。

例 京都、そこは日本でいちばん好きな場所だ。

練習問題 ～名詞（体言）～

1 次の□から名詞をそれぞれ選んで書きぬきなさい。

(1) 黒板 転ぶ （ ）

(2) 決して 丸い 青森県 （ ）

(3) 固い テント もっと （ ）

2 次の文から名詞をすべて書きぬきなさい。

(1) 図書館で借りた資料を返す。 （ ）

(2) 単語の意味を辞書で調べる。 （ ）

(3) 将来の進路について考える時間がほしい。 （ ）

3 次の――線部は、文中で 主語・述語・修飾語・独立語 のうちのどの働きをしていますか。

(1) 風が 強く 吹いて いる。 （ ）

(2) あそこに いるのは、祖父です。 （ ）

(3) 日曜日に 映画館に 行った。 （ ）

(4) 卒業、それは 新しい 旅立ちだ。 （ ）

動詞

確認① 動詞の性質

① 自立語で活用がある。

例 弟(自)は／早く(付)／起きる(自)。（自＝自立語、付＝付属語）

↓「起きる」は自立語で、「起き（ない）・起きれ（ば）」などと語形が変わる。

② 動作（どうする）・作用（どうなる）・存在（ある）を表し、それだけで述語になることができる。

例・海で 泳ぐ。（動作）

・風が 吹く。（作用）

・犬が いる。（存在）

③ 「泳ぐ。」「吹く。」など、言い切りの形がウ段の音で終わる。

例 泳ぐ・吹く・いる・見る

※「言い切りの形」とは、形がかわる前の「もとの形」のことです。

確認② 動詞の働き

▼ 動詞は、それだけで、または他の語を伴って、文中で次のような働きをする。

① 述語になる。例 母が(主語) 笑う(述語)。

② 修飾語になる。例 笑う 声が 聞こえた。

③「の」と「は」などを伴って主語になる。例 笑うのは 母だ。

※ この場合の「の」は「こと」という名詞のかわりにつかわれている。動詞は、下に名前をつけないと、主語にはなれない。単独で主語になれるのは、名詞だけであることにも注意する。

④「ので」などを伴って接続語になる。例 笑うので、悔しい。

練習問題 ～動詞～

1 次の□から動詞をそれぞれ選んで書きぬきなさい。

(1) 楽しい 書く 複雑 （　　）

(2) 作る やがて たくさん （　　）

(3) 寒い ある お客 （　　）

2 次の単語の中から動詞を選び、□で囲みなさい。

銀行 知る さびしい 泳げる 振り返る やがて もらう 小さな 交通 歩ける

3 次の――線部は、文中で 述語・修飾語・主語・接続語 のうちのどの働きをしていますか。

(1) 弟が 大声で 呼ぶ。 （　　）

(2) 弟の 呼ぶ 声が 聞こえた。 （　　）

(3) 向こうで 呼ぶのは、僕の 弟だ。 （　　）

※ この「の」は「人」のかわりにつかわれている。

(4) 呼ぶので、急いで 駆けつけた。 （　　）

(5) 兄は、弟を 呼びに 行った。 （　　）

形容詞

確認① 形容詞の性質

① 自立語で活用がある。

例 海(自) から(付)／ふく(自)／風 が(付)／すずしい(自)。（自＝自立語、付＝付属語）

↓形容詞

↓「すずしい」は自立語で、「すずしく（ない）・すずしけれ（ば）」などと語形が変わる。

② 終止形が「い」で終わる。

例 荷物が軽い。　優勝してうれしい。　その船は大きい。

確認② 形容詞の働き

▼ 形容詞は、それだけで、または他の語を伴って、文中で次のような働きをする。

① 述語になる。

例 音楽の 授業は 楽しい。

② 修飾語になる。

例・楽しい 番組を 見る。（連体修飾語）

・楽しく おどる。（連用修飾語）

③「の」と「は・が」などを伴って主語になる。この場合の「の」は「こと」という名詞のかわりにつかわれている。動詞は、下に名詞をつけないと、主語にはなれない。単独で主語になれるのは、名詞だけであることにも注意する。

例 楽しいのは、君だけだ。

④「ので」などを伴って接続語になる。

例 楽しいので、帰りたくない。

練習問題 ～形容詞～

1 次の単語の中から形容詞を選び、□で囲みなさい。

冷たい　出会い　弱い　喜び　よい

2 次の□から形容詞をそれぞれ選んで書きぬきなさい。

(1) おかしい　積もる　簡潔　（　　）

(2) 身近　たいてい　安い　（　　）

(3) 係る　悲しい　売り物　（　　）

3 次の――線部は、文中でどんな働きをしていますか。□から選んで書きなさい。

(1) 力が 強い。（　　）

(2) 強い 力で 綱を 引く。（　　）

(3) 綱を 強く 引く。（　　）

(4) 強いのは、君の 腕力だ。（　　）

(5) 強いので、だれも かなわない。（　　）

主語　連体修飾語　連用修飾語　述語　接続語

形容動詞

確認① 形容動詞の性質

① 自立語で活用がある。

例 天気 が／昨日 より／おだやかだ。

↓「おだやかだ」は自立語で、「おだやかで（ない）・おだやかなら（ば）」などと語形が変わる。

形容動詞

② 終止形（言い切りの形）が「だ」・「です」（「だ」の丁寧な言い方）で終わる。

例 きれいだ・簡単だ・きれいです・簡単です

確認② 形容動詞の働き

▼ 形容動詞は、それだけで、または他の語を伴って、文中で次のような働きをする。

① 述語になる。

例 部屋が きれいだ。

② 修飾語になる。

例・きれいな ハンカチを 使う。（連体修飾語）

・部屋を きれいに 片づける。（連用修飾語）

③ 「の」と「は・が」などを伴って主語になる。

例 きれいなのは、君の 手だ。

④ 「ので」などを伴って接続語になる。

例 きれいなので、写真に ところう。

練習問題 ～形容動詞～

1 次の□から形容動詞をそれぞれ選んで書きぬきなさい。

(1) 怒る さわやかだ 大きい （　　）

(2) 豊かだ 喜び すぐに （　　）

(3) 出す そして 活発です （　　）

2 次の単語の中から形容動詞を選び、□で囲みなさい。

静かだ 台風だ 大きな おだやかだ 大きい

3 次の――線部は、文中でどんな働きをしていますか。□から選んで書きなさい。

(1) 彼の 性格は おおらかだ。 （　　）

(2) おおらかな ところが 長所だ。 （　　）

(3) 物事を おおらかに 考える。 （　　）

(4) おおらかなのは、彼の 性格だ。 （　　）

(5) おおらかなので、気に しない。 （　　）

主語　連体修飾語　連用修飾語　述語　接続語

副詞

確認①　副詞の性質と働き

①　自立語で活用がない。

例　雨（自）が（付）／ザーザー（自）と／降る（自）。（自＝自立語、付＝付属語）

↓　「ザーザーと」は自立語で、あとに続く言葉によって語形が変わらない。

副詞

②　状態（どのように）や程度（どのくらい）を表す。

例・お日様が　さんさんと　照る。（どのように）

・人が　たくさん　いる。（どのくらい）

③　単独で主語や述語などになれず、主に連用修飾語になる。

例・にっこりと　ほほえむ。（動詞の文節を修飾）

・今日は　とても　寒い。（形容詞の文節を修飾）

・海が　大変　おだやかだ。（形容動詞の文節を修飾）

※「修飾する」とは、「くわしく説明する」という意味です。「ほほえむ」だけでは、どのようにほほえむのかわからない。「寒い」だけでは、どのくらい寒いのかわからない。

練習問題　～副詞～

1　次の文から副詞を書きぬきなさい。

(1)　足のけがをじっくり治療する。　（　　）

(2)　梅の木がずいぶん大きくなった。　（　　）

(3)　おそらく彼はやって来るだろう。　（　　）

(4)　竹とんぼがくるくる回って飛んだ。　（　　）

(5)　家に帰ると、すぐに宿題を済ませた。　（　　）

2　次の文から副詞を探して→の上に書きぬきなさい。また、その副詞が修飾している言葉を一文節で下に書きぬきなさい。

(1)　山田さんは、言葉遣いがとても丁寧だ。
（　　）→（　　）

(2)　風が吹いて、カサカサと木の葉が鳴る。
（　　）→（　　）

(3)　すらすら問題が解けるのは、うれしい。
（　　）→（　　）

(4)　転校生が来るという話は、だいぶ前に聞いていた。
（　　）→（　　）

(5)　ぜひキャンプに参加したいと彼も言っていた。
（　　）→（　　）

(6)　忙しくて、まったく理髪店に行けなかったので、髪の毛がかなり伸びた。
（　　）→（　　）
（　　）→（　　）

連体詞

確認① 連体詞の性質と働き

① 自立語で活用がない。

例 いろんな(自)／思い出(自) を(付)／話(自)す。

↓ 「いろんな」は自立語で、あとに続く言葉によって語形が変わらない。

② 「どの・どんな」を表す。

例（どの） この 本　あの 家　例の 話

（どんな） あらゆる 情報　とんだ 失敗　大きな 犬

③ 常に連体修飾語になり、体言をふくむ文節を修飾する。

例 たいした 感性を もって いる。

確認② 連体詞のいろいろ

▼ 連体詞には、次のような型がある。

① 「～の」型…この・その・あの・どの・例の

② 「～な」型…小さな・大きな・おかしな・いろんな

③ 「～た」型…たいした・とんだ

④ 「～る」型…あらゆる・ある・いわゆる・去る

⑤ その他…我が・あらぬ

例 我が 国の 政治。

※「小さい」「大きい」「おかしい」は、形容詞。

練習問題 ～連体詞～

1 次の文から、連体詞を探して（　）に書きぬきなさい。

(1) その 本は わたしが 借りた ものです。

〔（　　）本は〕

(2) 村には おかしな 話が ある。

〔（　　）話が〕

3 次の～～線部の連体詞が修飾している言葉を一文節で書きぬきなさい。

(1) あの 人に 聞いて みる。（　　）

(2) とんだ 事件が 起こる。（　　）

(3) ここが いわゆる 原宿か。（　　）

4 次の――線部を修飾している連体詞を書きぬきなさい。

(1) 店には いろんな 商品が ある。（　　）

(2) 君の お父さんは どの 人？（　　）

(3) それは たいした 傷では ない。（　　）

接続詞

確認① 接続詞の性質

① 自立語で活用がない。

例　のど（自）が（付）／かわく（自）。

だから（自）、／水（自）を（付）／飲む（自）。（自＝自立語、付＝付属語）

↓接続詞

↓「だから」は自立語で、あとに続く言葉によって語形が変わらない。

② 文と文、文節と文節をつないで、どんな関係で前後がつながっているかを示す。

例・雨が降った。（文）　それで、水たまりができた。（文）（文と文をつなぐ）

・川（文節）　または　海で（文節）　泳ぐ。（文節と文節をつなぐ）

③ それだけで接続語になることができる。

確認② 接続詞の種類(1)

① 順接…だから・そこで・すると・したがって・よって

② 逆接…しかし・だが・ところが・けれど・だけど・でも・が

③ 並立・累加…そして・しかも・なお・それに・さらに・また

④ 対比・選択…または・それとも・あるいは・もしくは

⑤ 説明…つまり・なぜなら・例えば・すなわち・ただし

⑥ 転換…さて・ところで・では・ときに・それでは

練習問題 ～接続詞～

1 次の〔　〕にあてはまる接続詞を□から選んで書き入れなさい。

(1) 試合に負けた。〔　　〕、もっと練習しよう。

(2) 説明を終わります。〔　　〕、今何時ですか。

(3) 雲が出てきた。〔　　〕、雨は降らないだろう。

(4) 明日は体育祭です。〔　　〕、来週は文化祭です。

(5) 海へ行こうか。〔　　〕、山へ行こうか。

(6) これは捨てよう。〔　　〕、傷みが激しいからだ。

それとも　なお　なぜなら
ところで　だから　だが

2 次の――線部の接続詞と同じ種類のものを□から選んで書きなさい。

(1) 映画を見た。けれど、つまらなかった。（　　）

(2) 芝居が好きだ。そこで、演劇部に入った。（　　）

(3) 彼はまじめで、しかも働き者だ。（　　）

(4) 新聞または雑誌をご覧ください。（　　）

あるいは　したがって
ところが　それに

感動詞

確認①　感動詞の性質

①　自立語で活用がない。

例　おや（自）、／雨（自）が（付）／降って（自）／きたぞ（付）。（自＝自立語　付＝付属語）

↓　感動詞

↓　「おや」は自立語で、あとに続く言葉によって語形が変わらない。

②　話し手の感動・呼びかけ・応答・あいさつなどを表す。

例・ああ、見事な　景色だなあ。（感動）
・さあ、出発しよう。（呼びかけ）
・はい、その　とおりです。（応答）
・こんにちは、村田さん。（あいさつ）

③　多くは文の最初にきて、独立語になる。

例　ねえ、ちょっと　待ってよ。

確認②　感動詞の種類

①　感動（おや・あら・まあ・やあ・あっ　など）

②　呼びかけ（ねえ・ほら・もしもし・さあ　など）

③　応答（ええ・いいえ・そう　など）

④　あいさつ（こんにちは・こんばんは　など）

⑤　かけ声（どっこいしょ・よいしょ・それ　など）

練習問題　～感動詞～

1　次の文から感動詞を書きぬきなさい。

(1)　まあ、なんてきれいな花でしょう。　（　　）

(2)　もしもし、横井さんですか。　（　　）

(3)　いや、たいしたことはないよ。　（　　）

(4)　こんばんは、今日も暑かったですね。　（　　）

2　次の文から〔　〕の種類の感動詞を書きぬきなさい。

(1)　いよいよ明日が公式戦だ。さあ、今日も頑張ろう。　〔呼びかけ〕（　　）

(2)　「私が持ちましょうか。」「ええ、よろしくお願いします。」　〔応答〕（　　）

(3)　よいしょ。やっと全部運び終えたね。　〔かけ声〕（　　）

(4)　あら、ハンカチを忘れてしまった。どうしよう。　〔感動〕（　　）

(5)　中川さん、おはよう。　〔あいさつ〕（　　）

助詞

確認① 助詞の性質

① 付属語で活用がない。

例　話（自）を（付）／する（自）。（自＝自立語、付＝付属語）

↓ 助詞

↓「を」は、「話」という名詞（体言）のあとに付いて文節を作っているので、付属語である。付属語はそれだけでは意味がわからない。

↓ あとに続く言葉によって語形が変わらない。

② 体言や用言、他の付属語について、語と語の関係を示したり細かい意味を付け加えたりする。

例・母（が）見る。（「母」が主語であることを示す）

・母（を）見る。（「見る」対象を示す）

・つらく（ても）がんばる。（前後が逆接であることを示す）

・つらい（ので）あきらめる。（前後が順接であることを示す）

・理科（だけ）好きだ。（「理科」に限定する意味を示す）

・理科（も）好きだ。（「理科」が他の同類であることを示す）

練習問題 ～助詞～

1 次の文中の助詞を○で囲みなさい。

(1) 花　が／咲く。

(2) 学校　から／帰る。

3) 私　は／高校生　に／なる。

(4) 自分　の／名前　を／書く。

(5) 母　と／デパート　へ／行く。

3 次の（　）にあてはまる助詞を［　］から選んで書き入れなさい。

・〔花（　　）かれた（　　）、花瓶（　　）水（　　）替えた。〕

［　が　を　の　ので　］

4 次の文を、例にならって、助詞には――線を付けなさい。

例　梅の／花が／咲く。

(1) 姉が／昨日／学校を／休んだ。

(2) 彼は／僕より／絵が／上手だ。

(3) お正月に／お年玉を／たくさん／もらった。

(4) 隣の／町へ／買い物に／行った。

助動詞

確認① 助動詞の性質と働き

① 付属語で活用がある。

例　おやつ　は／食べ　ない。

→「ない」は、自立語（動詞「食べ」）に付いて文節を作っているので付属語である。

→「なかっ（た）・なけれ（ば）」などと活用する。

② 用言や体言、助詞や他の助動詞に付いて、いろいろな意味を付け加えたり、話し手（書き手）の判断を表したりする。

例・生　で　食べ　られる。（可能を表す）

・冬山　に　は　登ら　ない。（否定を表す）

※助動詞には、ほかに次のような語がある。

「れる」「られる」

「せる」「させる」

「たい」「たがる」

「だ」「です」「ます」

「そうだ」「そうです」「ようだ」「ようです」「らしい」

「う」「よう」「まい」

「ぬ」「ない」

「た」

練習問題　～助動詞～

1　次の（　）に、――線部の助動詞を活用させて書き入れなさい。

(1) 頭を働かせる。→〔頭を働か（　　）よう。〕

(2) 急用で行けない。→〔急用で行け（　　）なる。〕

(3) 早く帰ります。→〔早く帰り（　　）う。〕

(4) 先生になりたい。→〔先生になり（　　）た。〕

2　次の〔　〕の意味に合う助動詞を、□から選んで書き入れなさい。（助動詞は一回ずつしか使えません。）

(1) 〔否定〕…この機械は動か〔　　〕。

(2) 〔たとえ〕…まるで赤い花びらの〔　　〕。

(3) 〔推定〕…明日も晴れる〔　　〕。

(4) 〔断定〕…これは父のかばん〔　　〕。

だ　　らしい　　ない　　ようだ